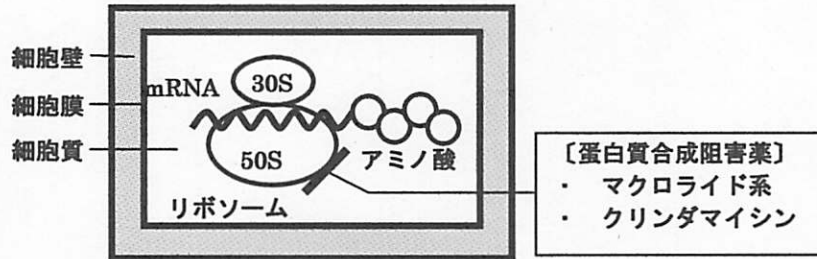


クリンダマイシン

5年次 BSL 感染症内科
6班 A 的場健人(78)

● クリンダマイシンとは？

- リンコマイシン系の静菌性抗菌薬で、50S リボソームに働いて蛋白合成を阻害します。主に好気性グラム陽性球菌および嫌気性菌、原虫などに使用します。ただし、腸球菌には無効です。



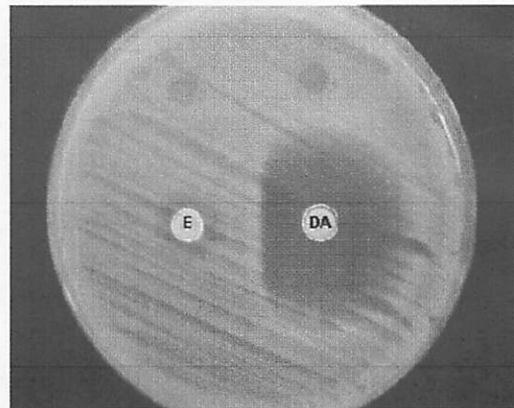
適応

- 中枢神経外の *Bacteroides fragilis*、他のペニシリン耐性嫌気性菌
 - ◇ クリンダマイシン耐性 *B. fragilis* が増えており、横隔膜下 *B. fragilis* にはメトロニダゾールを使うことが多い。ただし日本ではメトロニダゾールの静注は未承認である。
- ペニシリンアレルギーへの代替薬
 - ◇ *S. pyogenes* による咽頭炎、扁桃腺炎、皮膚軟部組織感染
- 壊死性筋膜炎
 - ◇ クリンダマイシンは *S. aureus* や *S. pyogenes* の毒素を抑制する効果があり、βラクタム系と併用される。
- *Pneumocystis jirovecii*、*Toxoplasma gondii*、*Babesia spp.* や *Plasmodium spp.*
 - ◇ ニューモシスチス肺炎は primaquine と、トキソプラズマ脳炎は pyrimethamine と併用でそれぞれ ST 合剤アレルギー患者に用いる。babesiosis やマラリアには quinine と併用する。

特徴

- 消化管からの吸収がよい
 - ◇ 経口でも用いることができる。
- 髄液への移行は悪い
 - ◇ たとえ髄膜炎が存在しても移行が悪い。
- 骨への移行は良好
 - ◇ 骨髄炎の治療としては確立していない。
- 肝代謝
 - ◇ 腎障害時でも投与量の調整は不要。
- 副作用: 偽膜性腸炎、CDAD (*C. difficile*)
 - ◇ 20%に下痢が生じ(特に経口)、うち最大で半数が偽膜性腸炎による。

■ MLS_B 型耐性と D-test



マクロライド耐性黄色ブドウ球菌は、クリンダマイシン存在下でクリンダマイシン耐性を誘導されることがある。

(参考) Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases; Gerald L. Mandell MD MACP, John E. Bennett MD, Raphael Dolin MD; p440-443

抗菌薬の考え方、使い方; 岩田 健太郎、宮入 烈; p327-330

レジデントのための感染症診療マニュアル; 青木 真 ; p202-207